



福島県におけるモモせん孔細菌病の総合的な防除対策

福島県農業総合センター果樹研究所 なな七 うみ海 たか隆 ゆき之

はじめに

福島県の2019年におけるモモの栽培面積は1,790 ha、収穫量が27,000 tと全国第2位であり（農林水産省，2019 a；2019 b），2012年以降は東南アジアへの輸出量も増加している等，モモは本県の重要な園芸品目となっている。

モモには灰星病やホモプシス腐敗病等の重要病害があ

るが，その一つとしてせん孔細菌病が挙げられる。本病は *Xanthomonas arboricola* pv. *pruni* を主病原とする雨媒伝染性の難防除病害であり，枝（1年枝，新梢），新梢葉および果実に発生するが（図-1a～d），果実で発生した場合には商品価値が著しく低下するために減収を招き，大きな問題となる。近年では，本県を含め全国的に本病の発生が多い状況にあり，モモの生産者にとって深刻な問題となっている。



図-1a 1年枝での発生（春型枝病斑）



図-1b 新梢での発生（夏型枝病斑）



図-1c 新梢葉での発生



図-1d 果実での発生

Integrated Control of Bacterial Spot on Peach in Fukushima Prefecture. By Takayuki NANAUMI

（キーワード：モモ，せん孔細菌病，防除対策）